

## 気象情報を活用した新コンテンツサービスを考えよう！

特定非営利活動法人 企業教育研究会 塩田 真吾

info@ace-npo.org

キーワード：気象情報、コンテンツサービス

### 1. 授業のねらい

気象は一瞬も止まることなく刻々と変化するものであり、時として人命に直接関わるほど私たちの生活に大きな影響を与えている。一方、現在気象に関する情報は、単に明日雨が降るかどうかを予報し提供するだけでなく、雨が降ることによって企業活動、人々の生活にどう影響するのか、どのような対応策をとるべきなのかという情報（コンテンツサービス）まで提供している。例えば日本に本社を置く世界最大の気象情報会社ウェザーニューズ社では、気象情報を活用し、1. 航空事業者に向けて気象リスクを加味し運航及び業務判断を支援する「航空気象コンテンツサービス」の展開、2. 流通・小売業者に向けて気候の季節変動や日々の気象変化との分析を行い最適な発注・在庫管理を支援する「流通気象コンテンツサービス」の展開、さらに3. スポーツを楽しむ人々に向けて、「安全に」「より楽しむ」「勝負に勝つ」ための気象情報を提供する「スポーツ気象コンテンツサービス」など15以上のコンテンツサービスを展開している。

そこで本授業では、「気象情報」を題材とし、生徒が新しいコンテンツサービスを考えることによって、コンテンツサービスの仕組みや活用意義の理解、さらに情報活用能力の育成を目指す。

### 2. 授業の概要

授業1時間目では、気象情報サービスの基本的な仕組み、コンテンツサービスの具体的な事例を紹介する。例えば、モバイルコンテンツサービス、道路気象コンテンツサービス、スポーツ気象コンテンツサービスや双方向コンテンツサービスを紹介する。さらに、携帯電話によって、モバイルコンテンツサービスを体験する。

授業2時間目では、コンテンツサービス仕組み（ニーズ調査やサービスの運用など）の紹介、さらに生徒が新しいコンテンツサービスを考えることで、理解を深める。

#### (1) 授業開発者

株式会社 ウェザーニューズ

NPO法人 企業教育研究会

#### (2) 授業計画

時間数	2時限（50分×2）
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツサービスの仕組みを理解する。</li> <li>コンテンツサービスの活用意義について理解し、有効に利用できる姿勢を身につける。</li> </ul>
授業内容	<p><b>【1時限目】</b> 気象情報の基本的な仕組み、コンテンツサービスの具体的な事例を紹介する。</p> <p><b>授業の流れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気象情報取得の方法についての説明</li> <li>○ コンテンツサービスの具体的な紹介。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モバイルコンテンツサービス</li> <li>・道路気象コンテンツサービス</li> <li>・スポーツ気象コンテンツサービス</li> </ul> </li> <li>○ モバイルコンテンツサービスの体験</li> </ul> <p><b>【2時限目】</b> コンテンツサービス仕組み（ニーズ調査やサービスの運用など）の紹介、さらに生徒が新しいコンテンツサービスを考える。</p> <p><b>授業の流れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンテンツサービスの仕組みについて説明</li> <li>○ 生徒が新しいコンテンツサービスを考える</li> <li>○ 生徒による提案活動</li> <li>○ 講師によるコメント</li> </ul>

表1 授業計画

### (3) 教材

- ・ PowerPoint 教材（気象情報を活用した新コンテンツサービスを考えよう！）
- ・ ワークシート（コンテンツサービス記入例・記入用）
- ・ ワークシート（携帯電話の操作方法）

## 3. 授業実践事例

### 3.1 授業実施校

千葉県立柏西高等学校（2 学年 1 クラス生徒数 40 名）  
千葉県市川市立大洲中学校（1 学年 1 クラス生徒数 36 名）

### 3.2 授業の流れ

#### ■1 時間目

- ① 講師紹介
- ② 気象情報についての説明
- ③ コンテンツサービスの紹介
  - ・ モバイルコンテンツサービス
  - ・ 道路気象コンテンツサービス
  - ・ スポーツ気象コンテンツサービス
- ④ モバイルコンテンツサービスの体験

#### ■2 時間目

- ① コンテンツサービスの仕組みについて説明
- ② 生徒が新しいコンテンツサービスを考える
- ③ 生徒の発表
- ④ 講師からのコメント



写真1 モバイルコンテンツサービスの体験



写真2 講師が生徒のアイデアにコメントする様子

## 4. 授業の成果、評価

本授業では、気象情報を題材に、コンテンツサービスの仕組みの理解と、コンテンツサービスの活用意義についての理解、さらに有効に利用できる姿勢を身につけることを目的とした。授業の感想では、「いろいろなプロジェクトやコンテンツサービスがあることを知った。」「いつも見ていた天気用法の裏側が見れた気がした。天気予報などの大切さがわかった。いい経験になりました。」「おもしろかったです。普段何気なくTVで見る天気予報だけど、少し違った視点で見てみるのも良かった。」「ただ、天気を伝えるだけでなく、いろいろな工夫がされていて楽しかったです。」などがあった。また、授業後のアンケートでは、授業の内容について 100%の生徒が、「とてもよく理解できた・だいたい理解できた」と回答している。さらに、積極的に授業に参加し、新しいコンテンツサービスのアイデアを考えた生徒が多かった点からも、設定した目標については大方達成できたと考えられる。

## 5. おわりに

本授業は、授業の様子やアンケート結果からよみとれる生徒の興味関心の高まりから、テーマ・内容は概ねよかったと考えられる。

学校側としては、経済的問題への対応、年間カリキュラムへの組み込み、学年のどのクラスでも実施できるようにする体制の検討といった点が継続的に続けていくために考慮すべき点としてあげられた。

また、産業界からは、昨年同様に授業をコーディネーターする本研究会の重要性についてのコメントがあった。

今後の検討課題として、授業実践においては、産業界の講師が授業の進行に不慣れなことから、教師が進行役をとりながら、適宜講師に詳しい説明や具体例の提示などを行ってもらう形が有効ではないかという点が上げられる。

今後は、教材をweb上に公開し、積極的に広報し、今回の授業を普及していきたい。

来年度以降実施する際の経済的問題については、教材は既存のものを活用することで、大きな負担はないと考えられる。講師の交通費のみ、学校側から負担をしていただく形で考えている。